

# 予算特別委員会会議録

令和 3 年 2 月 15 日

宮 古 市 議 会

## 令和3年2月宮古市議会 予算特別委員会会議録目次

(2月15日)

議事日程	1
出席委員	2
欠席委員	2
説明のための出席者	2
議会事務局出席者	2
開 会	3
付託事件審査(1)	3
閉 会	11

宮古市議会予算特別委員会会議録

日 時 令和3年2月15日（月曜日） 午後2時5分  
場 所 議事堂 議場

---

○

---

事 件

[付託事件審査]

(1) 議案第18号 令和2年度宮古市一般会計補正予算（第16号）

出席委員（21名）

工藤小百合	委員長	竹花邦彦	副委員長
白石雅一	委員	木村誠	委員
西村昭二	委員	畠山茂	委員
小島直也	委員	鳥居晋	委員
熊坂伸子	委員	佐々木清明	委員
橋本久夫	委員	伊藤清	委員
佐々木重勝	委員	高橋秀正	委員
坂本悦夫	委員	長門孝則	委員
落合久三	委員	松本尚美	委員
加藤俊郎	委員	藤原光昭	委員
田中尚	委員		

欠席委員（0名）

---

説明のための出席者

付託事件審査（1）

総務部長 中嶋 巧 君	保健福祉部長 伊藤 貢 君
財政課長 箱石 剛 君	健康課長 早野 貴子 君
財政係長 山本 恭彦 君	主 査 小林 亜由 君

---

議会事務局出席者

事務局長 下島野 悟	次 長 松橋 かおる
主 任 佐々木 健 太	

## 開 会

午後2時5分 開会

○委員長（工藤小百合君） ただいままでの出席は21名であります。定足数に達しておりますので、これから予算特別委員会を開会します。審査に入る前に申し上げます。本日の案件は付託事件審査1件となります。審査はお配りしております審査日程のとおり、議案第18号令和2年度宮古市一般会計補正予算第16号の審査となりますので、よろしく申し上げます。発言及び答弁は、1問1答方式で申し上げます。発言の時間につきましては、質疑、答弁を含め1人20分以内としますので、質疑、答弁とも簡潔明瞭に申し上げます。なお必要がある場合には2巡目まで行います。当局においては場合によっては反問権も認めますのでよろしく申し上げます。

○

### 付託事件審査（1） 議案第18号 令和2年度宮古市一般会計補正予算（第16号）

○委員長（工藤小百合君） それでは、審査を行います。審査は歳入歳出一括で行います。発言される方は議案書のページ款項目等を特定して発言してください。それでは、発言される方は挙手願います。それでは畠山委員。

○委員（畠山茂君） はい。よろしく申し上げます。4款衛生費1項保健衛生費2目予防費の1件しかないので、主要事業一覧表でお聞きしたいと思いますのでよろしく申し上げます。一覧表ですよ、1枚しかないんですけど。この補正予算1,580万。これは見たら、国の全部財政負担だということで、それはそれでよしとして、この件は、先週の12日にも説明を大体概要受けておまして、私が感じるのはいよいよこのワクチン接種のポイントは、どこに接種場所を設置して、いかに現場でうまく人の流れをつくれるかというのがまず一つのポイントだと思います。もう一つがこの間の説明で完全予約制であるというお話があったんで、いかに円滑にやっぱり予約を取っていただけるかというのが、私はこの二つが大きなポイントかなというふうに思って聞いていました。今回、この補正の中で特に聞きたいのはこのコールセンターの業務委託のところなんですけど、これから国のほうがまだきちとしたものを出してないので、これからいろいろ詰めていくんだとは思いますが、まずこの完全予約制でやっていくに当たって、コールセンターを設けて委託をしてやっていくんだということで、まず最初にお聞きしたいのは、このコールセンターの全体的な概要というか、どういったところに委託をして、どういった人数で、期間は、補正なんで3月いっぱいなのか、900万というのは年度を越した分を見ているのかちょっとあれなんですけど、全体像のコールセンターの説明をいただければと思います。

○委員長（工藤小百合君） 早野健康課長。

○健康課長（早野貴子君） はい、ではコールセンターの内容についてお答えします。

○委員長（工藤小百合君） 課長、もう少しマイク下げてもらえませんか。

○健康課長（早野貴子君） 失礼しました。コールセンターの内容についてお答えいたします。現時点で高齢者の接種が4月以降ということが国で示してございます。早ければ4月1日ということになりますので、私どもとしましては3月中にコールセンターの委託をして、3月中旬ぐらいから運営できるような体制をとりたくて考えてございます。コールセンターの内容は、このコロナワクチン接種するための予約のまずシステム。ウェブ上のシステムで予約がとれるような体制。または電話で予約に対応していただくためのコールセンター。そこはその予約システムが使えるようなところであることということになります。電話とウェブ上がシステムの別々ではなくて同じところで責任を持ってそこまでやっていただけるものと考えてございます。あとは4月以降は高齢者ですけれども、そのあとそれよりも若い世代の方々が対象になってきます。そうしますと、L I N

Eの予約が可能であることということで、LINE上で予約をすると手元にきちんと予約をした証拠といえますか、それが残りますのでLINEを使えるといいのかなと思っていました。あとはそのあと予約してシステムで登録した方が接種した場合、その住民情報システム、こちらが持っている健康管理のシステムとそれとの連携の対応が可能であることというのを考えてございます。それらで今、これらの条件でもって業者を選定している状況でございます。

○委員長（工藤小百合君） 畠山委員。

○委員（畠山茂君） はい、わかりました。電話もあり、今でいうITもありでやっていくと。両輪で。はい。私はこの期間とかちょっと、人数は委託業者でやるんだと思うんですけど、期間というのも、終わるまでという認識で私今受け取ったんですけど、例えばこの間は9月末を目指してやるという話だった。まずこの900万の期間をちょっとお聞きしていいですか。

○委員長（工藤小百合君） 早野健康課長。

○健康課長（早野貴子君） この期間に関しましては、令和2年度内の委託期間となりまして、そのまま継続をして、令和3年度も継続をして委託をしていくということになります。現時点で9月末までですけども、集団接種に関してはそれより早くに終わらせるというお話を先週お話ししましたが、集団接種から個別接種に移っていったときの予約体制については、それぞれの医療機関とまた協議をしなければならないと思っております。システムを使って管理したい医院もありますでしょうし、またインフルエンザ等の予約と同様にそれぞれの医院が個別で予約をとりたい場合もあると思っておりますので、その辺りは医院と相談をしながら進めてまいりたいと思います。

○委員長（工藤小百合君） 畠山委員。

○委員（畠山茂君） この間の説明の続きで、集団もあり個別もありで、6月以降は民間の病院に頼んで対応できるような委託先を見つけてやっていくというふうに理解をいたしました。ちなみに決まっていらないと思うんですが、1日今何人ぐらいをとかっていう想定はもうしていますか。それともこれからのお話なんですか。そこをちょっと確認したいと。

○委員長（工藤小百合君） 早野健康課長。

○健康課長（早野貴子君） 議員さんおっしゃいました何人ぐらいっていうのはコールセンターの人員という意味ですか。受けるかという…。

○委員長（工藤小百合君） 畠山委員。質問の意図を詳しく説明してください。

○委員（畠山茂君） 分かりました。そこはやめます。削ります。これから説明はしていくわけだから、人数はね、これから接種場所がいくらになるかによって、変わってくると思うのでよく考えれば、はい。それではもう1点お聞きします。コールセンターは置いておいて、次の上のほうの印刷製本費チラシを印刷で配るという事業も100万ほど補正を取ってるんですけど、チラシの接種券もそうだと思うんですけども、どういった内容のチラシを配布する予定でいるのか。決まっているのか、決まっていないのか。ちょっとそこをお聞きしたいと思っております。

○委員長（工藤小百合君） 早野健康課長。

○健康課長（早野貴子君） 現時点で想定しておりますのは、まずこのワクチンについて詳しい情報を市民の皆様にお知らせしなければならないと考えてございます。それでワクチンの内容について、まずお知らせしたいのと、あとはこの集団接種について予約をとって行うということで、コールセンター等の周知について皆様に

お伝えしなければならぬと思っております。1回ですめばよろしいんですけども、これから2回ほど決まり次第お伝えしていくという形を想定しております、このような内容を今考えてございます。

○委員長（工藤小百合君） 畠山委員。

○委員（畠山茂君） そのワクチンの有効性だったりリスクだったり、あるいはスケジュール等も含めてお知らせをしていくというふうに理解をいたしました。あとは最後にですね、もう1回確認したかったのが、先週もちょっと聞いたんですけど、そもそものこの対象者の基準というか、今住民基本台帳といったお話があったんですが、住民票なのか基本台帳なのか。1番危惧するのはやっぱりこの間も言ったとおり、宮古には席があるんだけど、都会の学校に行っているとか単身赴任者とか、要は接種難民が出ないように、先週のお話だと接種券に記入してどっちかというアナログ的なやり方だというような説明があったんですが、人によっては戻って来れない人ももちろんあるでしょうし、そういったとき都会でできるのかどうなのかということも含めて、やっぱりそういうところがちょっと気になったので、その基準、宮古市として宮古市民として認めて、いつの何日で登録した人が対象になるのか、もう一度そこを確認したいと思います。

○委員長（工藤小百合君） 早野健康課長。

○健康課長（早野貴子君） 接種時点で住民基本台帳に登録している方というのが対象にはなりません。ただ、今議員さんおっしゃったように、住所はここにあるんだけど、例えば大学生はそれぞれの住所を移したまま別の地域にいるという方もいらっしゃいますでしょうし、単身赴任の方とかいろんな場合が想定されると思います。それの方が接種出来ないということではなくて、それぞれの接種する医療機関であったり市町村に住居地以外でやるという届出をやることになります。それは予約をしたときに今国がつくり上げてるシステムの中で、そこに登録をした方はそちらの市町村で接種できるというシステムを今作ってございます。そういう形で全ての方が対象となるように今作り込みをしている最中でございます。ただ厳密にはその原則はそれぞれの市町村でお受けになってくださいというのがまず大原則でございます。

○委員長（工藤小百合君） 次は竹花委員。

○委員（竹花邦彦君） 主要事業一覧表もお示しをいただいておりますし、18の5ページについては、それぞれ事項別明細書が記載されてます。そこで最初に主要事業一覧表の歳出等の部分であります、消耗品費等に500万円の予算計上がされております。この中での医療用消耗品というのは具体的に何を指してどういう内容のものがこの予算の中に計上されているのでしょうか。

○委員長（工藤小百合君） 早野健康課長。

○健康課長（早野貴子君） はい。1番金額が多いものは、ファイザーのワクチンが最初に使われるわけですけども、それを希釈するための注射器であるとか針。これに関しては先日もご説明しましたとおり、接種そのものの注射器針は国から来ますけれども、それを希釈するための注射器針については市町村で準備をしなければなりません。それらが1番多くて230万円程ここで計上しております。そのほかには接種に伴う医療廃棄物、これに関してのボックスであったりとか、その他のものが55万円。あとはその他消毒液とか、接種部位を消毒するアルコール綿であるとかそういうものも計上してございます。

○委員長（工藤小百合君） 竹花委員。

○委員（竹花邦彦君） 今の課長のほうからは、医療廃棄物のためのボックスというお話がありました。ちょっと私もですね、これは時期的に今回の予算に入ってると思いませんでしたが、大量の注射器等々が使われることになるわけですね。従ってこの廃棄物をどう処理するんだろうか。そういう実は私は疑問を持っておりま

す。当然年度を越して使われたものはあるわけですが、現時点でこの医療廃棄物、注射器等々使われたものについては当然その廃棄をする費用もかかってくるだろうというふうに思います。もちろんこれは新年度の中で多分歳出等に行くのかなというふうに思っておりますが、取りあえずその前段の注射器等を保管をしていくボックスという理解でいいわけですか。

○委員長（工藤小百合君） 早野健康課長。

○健康課長（早野貴子君） はい、議員おっしゃいましたとおり、医療廃棄物そのものの廃棄をしてもらうものについての委託料に関しては、令和3年度の今後1号補正のほうで上げてございます。今回計上してございますのはそれを入れるための容器といいますか、それに関して計上しているものでございます。

○委員長（工藤小百合君） 竹花委員。

○委員（竹花邦彦君） 参考までに医療系廃棄物はどちらに捨てる。滝沢等にあるそこになるんですか。どこが想定をされておりますか。

○委員長（工藤小百合君） 早野健康課長。

○健康課長（早野貴子君） 今回の集団接種に関しましては、休日急患診療所の巡回診療として、行っていくものになります。休日急患診療所の医療廃棄物の処理をお願いしている業者をお願いする形になります。

○委員長（工藤小百合君） 竹花委員。

○委員（竹花邦彦君） つまり具体的に廃棄物は実際にどこに運搬しどこで処理をする予定になるんですか。そこまでは把握が出来てない。あくまでも業者のほうにお任せをしているということですか。

○委員長（工藤小百合君） 早野健康課長。

○健康課長（早野貴子君） はい。廃棄物業者をお願いをして、そちらが契約している場所で廃棄するという形になりますので、そこまでは私ども把握してございません。

○委員長（工藤小百合君） 竹花委員。

○委員（竹花邦彦君） 現時点では了解をいたしました。そこでコールセンターのやりとりが先ほどございました。私、最初は相談センター、いわゆる市民の皆さんからの様々な問合せ等に対する相談センターの意味のかなと思ったならば、先ほどの説明ではそうではなくて、予約、注射をする場合の予約のやり取りだと。相談センターの設置についてはどう考えてるんですか。それは新年度になるんですか。それとも相談センターそのものについては宮古市は設置をしない。保健センターが、健康課が直接やりとりをするということなんですか。この辺の考え方はどうお持ちなんでしょう

○委員長（工藤小百合君） 早野健康課長。

○健康課長（早野貴子君） 相談センターについても設置してまいります。ただ予算的には、新年度予算のほうで人件費を計上させていただいております。保健センターの中に別回線の電話を設けまして、スタッフを集めてそこで相談対応していくという形になります。今年度に関しましては、まずは保健センター内で対応していくという形になります。

○委員長（工藤小百合君） 竹花委員。

○委員（竹花邦彦君） はい。相談センターについても、保健センター内に人員配置をしてやっていく予定だということについては了解。そこで先ほど畠山議員とのやりとりの中で、このコールセンター運営業務委託料900万については、本年度内の予算だと、こういうふうには私は受け止めました。とすれば、先ほどの説明では3月中に委託をする。つまり1か月未満、3月中の契約で、3月の年度末までの委託料が900万だと。こういうふう



に私理解をしたんですが、そういう理解でいいですね。

○委員長（工藤小百合君） 早野健康課長。

○健康課長（早野貴子君） はい。そのような理解で問題ありません。

○委員長（工藤小百合君） 竹花委員。

○委員（竹花邦彦君） だとすれば、言わば2週間になるか3週間になるかわかりませんが、契約時期ですが、この900万の根拠はどういうふうな、900万の根拠を、つまり簡単に言うと、人件費等々があるんだろうというふうに思いますが、1ヶ月もしないで900万センター設置にかかると、かなりのそういうイメージがあってお聞きをしているわけです。この900万の根拠はどういう形での積算根拠なってるんでしょうか。

○委員長（工藤小百合君） 箱石財政課長。

○財政課長（箱石剛君） すいません。積算根拠というよりは今回の予算計上の考え方のところで私のほうからご説明をさせていただきます。まずその900万コールセンターの分、これを含めて接種体制の確保業務委託料930万ということで予算計上させていただいております。それとあわせて債務負担行為の補正ということで、接種体制の確保業務委託料、これを令和3年度に3,390万円とさせていただいております。この二つを組合せた形で2ヶ年の業務委託と言う形になりますので、3月の年度末の短期間に900万分が2年度の分にはなるんですけれども、短期間の部分だけで900万使われるというよりは、準備行為もありますので、その3月から翌年度にかけての2か年にわたってこの3,390万円と930万円、これを合わせた委託契約となるものと考えております。

○委員長（工藤小百合君） 竹花委員

○委員（竹花邦彦君） 次に私もね、この債務負担行為のワクチン接種体制確保業務委託料について、どういう中身なのだというお伺いをする予定でしたが、今課長のほうから話ありました。そうしますと、この債務負担行為で盛られている来年度の3,390万の中身はこのコールセンター分なのだという理解でいいわけですか。それともコールセンター以外のものも私は盛り込まれているんだろうなというふうにお聞きをしようと思っていたわけですが、現実にもっとやるために来年度のこの3,390万の債務補正の中のコールセンター分、委託料というのはどのぐらい見込んでいるわけですか。3,390万のうち。

○委員長（工藤小百合君） 早野健康課長。

○健康課長（早野貴子君） コールセンター分に関しましては3,300万となります。残り90万円については、ディスプレイフリーザーの管理料ということでの委託になります。

○委員長（工藤小百合君） 竹花委員。

○委員（竹花邦彦君） コールセンター分は令和2年度は900万ですよ。来年度は3,300万ですよ。合計4,200万。そうですね、4,200万がコールセンター設置に係る委託料の予算分だと、こういう理解でいいということですか。違う。そういうことでしょ。

○委員長（工藤小百合君） 早野健康課長。

○健康課長（早野貴子君） はい、そのような認識になります。

○委員長（工藤小百合君） 竹花委員。

○委員（竹花邦彦君） いいですよ。要するに2年度分として900万の予算計上をしますよと。そして来年度の債務負担行為で見ている3,390万のうち3,300万がコールセンター分だと。あわせて4,200万分がコールセンター分だと。こういうことですよ。そうすると、9月まであるいは10か月、単純にそうしますと、約半年間で4,200万ひと月700万前後のコールセンターの運営費になっていくと。こういう理解でいいわけですね。

- 委員長（工藤小百合君） 伊藤保健福祉部長。
- 保健福祉部長（伊藤貢君） はい。そのとおりでかまいません。
- 委員長（工藤小百合君） 竹花委員。
- 委員（竹花邦彦君） そうすると当然コールセンターですから、ほとんど人件費に対応する方々の人件費分だと。これが大きな積算根拠になるのだと。こういう理解でよろしいわけでしょうか。改めて確認させていただきます。
- 委員長（工藤小百合君） 早野健康課長。
- 健康課長（早野貴子君） コールセンターを行うための事務局の設置分であるとか、あとは人件費。当初5名対応でやっていただこうと思っておりますので、それらの人件費等々の積み上げとなります。
- 委員長（工藤小百合君） 竹花委員。
- 委員（竹花邦彦君） コールセンターというのは、市内に設置されるものですか。それとも市外等でやるものなんですか。市内でどうか事務所か何かそういう設置がされて、そこで対応すると。こういうことになるんですか。どういった形で想定がされているんでしょうか。
- 委員長（工藤小百合君） 早野健康課長。
- 健康課長（早野貴子君） 現時点でまだ委託業者が正式に決まってはございません。ただ、これまで幾つかの業者とお話を聞いたところ、盛岡市内で事務所を借受けてそこを拠点にコールセンターとするというお話を聞いてございます。
- 委員長（工藤小百合君） 竹花委員。
- 委員（竹花邦彦君） 1番心配をされるのは、何かトラブルがあった場合ね、速やかな対応が可能になるかどうかということなんだろうというふうに思うんですね。そういう意味からすると、もちろん今電話等々の対応がありますけれども、もう様々な初めてこのワクチン接種やるわけですから、当然、この間の全員協議会で申し上げましたけれども想定がされない課題等々も出てくる可能性も、どういう事態が起きてくるか、未経験ですから、非常にそういったものも、もしかすると出てくるかもしれない。その場合にどう速やかな対応ができるかということもある程度想定はしながら進めていく必要があるんだろうというふうに思うんですね。そういった意味では今課長の方からは業者等々の選定によっては盛岡になるのではないかと、こういうお話がありました。スムーズにそこはね、事務的連絡を様々含めて対応ができるような、そういったことも含めてしっかりとここは構築をしていただきたいというふうに思います。最後になります。ディープフリーザーの設置管理業務委託料30万。備品購入費ワクチン一時保管用冷蔵庫50万。つまりこれは冷蔵庫は市が50万で買いますよと。そしてその後で買った冷蔵庫をそれを設置管理するための30万は、委託料お金払うんですよという理解をしたわけですが、そういう理解でいいですか。
- 委員長（工藤小百合君） 早野健康課長。
- 健康課長（早野貴子君） ディープフリーザーは超低温の冷凍庫になります。ワクチンを入れるためのマイナス75度の冷凍庫になります。これは現時点では先週宮古病院に入りましたが、そういう形で外部のほうに1番多く出るところに設置をする予定でございます。そこでの工事費であるとか通常電気代であるとか管理というところに委託をするわけです。ここに上げてあります備品の冷蔵庫に関しましては、ディープフリーザーからワクチンを出した際、2度から8度でワクチンを一定の温度でもって管理しなければなりませんので、この冷蔵庫というのは温度記録ができるものがついた冷蔵庫を想定してございます。これは保健センターに置く予

定です。

○委員長（工藤小百合君） 竹花委員。

○委員（竹花邦彦君） はい。私はここはね、ここは一つに出来できるんじゃないかなという思いがあってお聞きをしました。了解をいたしました。そこで本当に最後にしたいというふうに思います。前回の全協でも今のところ集団設置場所については市民交流センターを考えていると。私は本当にその場所がいいのかどうなのかと含めて、改めて検討してほしいというお話も申し上げました。ぜひその点も含めてですね。いずれこれから本格的に準備が進められていく。国のほうのワクチン確保がどうなってくるかという問題はあるにしてもですね。いずれにしても、2月の中旬、もう来月中には集団接種をする場所等々含めて、当然皆さんにご案内をするときにはそういったものを決めていかなきゃならないというふうに思っておりますので、改めてその市民交流センターが本当に動線の問題、あるいはこの間の場合は接種をする方々の交通の利便性を含めてそこが1番ベターだと。駅を使ってすぐ渡ってあげれば良いということが一つの大きな要因として挙げられておりました。仮に市民体育館であることが、そういった交通の移動時間の問題性が出てくるよということであるとすれば、ある意味では私はそこは駅から市のマイクロ等々含めてですね。体育館に移動するような仕組みを考えればそこはクリアができるだろう。問題は、本庁舎等に来庁する市民の方々も平日やるとすれば、当然ここはワクチン接種する方々と一般市民の方々の言わば接触の機会がどうなるのかという問題等々、あるいは動線の確保の問題。そして一つは副作用等々の方々の部屋等々含めてですね。そういったものがある意味とすれば必要になってくると。ですから、本当に市民交流センターでいいのかどうなのかということをお私やっぱり真剣に議論すべきだろうというふうに思いますので、ぜひ移動手段に大きな課題があるんだというのであれば、そこは別途市の公用車等でのマイクロでの移動等ね、これは市民体育館でも可能だろうというふうに思いますので、ぜひそこは改めて再検討をお願いをしておきたいというふうに思いますので、よろしくお願ひ申し上げます。終わります。

○委員長（工藤小百合君） 田中委員にちょっと注意申し上げます。さきに予算委員会のときに皆さんに質問ありませんかと言いまして、挙手をいただきまして2名ということで進めてまいりました。以後、ある程度進んだと後からの挙手はなるべくならしないでいただきたい。今回は特に認めますので、次回から気をつけていただきたいと思います。田中委員。

○委員（田中尚君） 私の受け止めとすれば先の質問なさった方の質疑で納得ができるものであれば私は委員長が注意したようにですね、質問するつもりはさらさらありませんでした。しかし、最初に質疑をなさった方々の質疑の中で、なおその私なりに理解がいかなかったり、当局の説明も曖昧だったりするとですね。それは当然我々議会は住民に代わってしっかり予算を審議する機関でありますから、今のように最初に手を挙げなかったら駄目ですよというのはね、私はその議会の在り方としていかなものかなと思います。そういうことを注意をした上で私に発言の許可をいただきますが、私はそれは半分納得もして、半分おかしいんじゃないのってこと言いながらですね、質問します。それを改めて確認しますが、このワクチンの接種が射程距離に入った段階で、これの予約を担うそういうものとしてコールセンターっていう形は理解してるんですが、当局の説明でですね。ところがですよ、現時点では、岩手県のコールセンター、新型コロナウイルスコールセンターとなると、ちゃんと機能してるんですよ。それはどこかって保健所なんですよ。当たり前なんですよ。それから先、つまり予約業務を担うための直接市民との受け取りをする。そこに新たな団体をつくる。あるいは今ある何かわかりませんが、団体にそういう予約業務を担う。そこにお金を払うんだ。どういうふうに理解し

たらいいのかですね。私やりとり聞いてわからなかったんですよ。そうすると次にこの予算の内訳は何ですかという中で、5人ほどの人件費を考えてるってことでした。そういう小出しの説明というのはちょっと私はいかがなものかなと思うんですね。我々が予算に対してしっかり理解を持つためには、初めからしっかりと資料として出すってことは今までも注意している部分であります。議会のほうの要望として言ってくる部分です。現状は聞かなければできるだけ説明しないっていう、そういうつもりはないと思いますけども、結果的にはそういう内容になってるってことですね。なおかつ議会のほうの対応も最初に手を揚げなかったから駄目だよってなっちゃうとね。まさしく時間だけ早く、もう議会は形は開かれてあつという間に終わってしまう。そういうことになりかねませんので、そういった意味ではそこはちょっと議会としてどうなのかな。これは議連の課題かと思えますけども、そこでちょっと質問はそこなんです。もう一度整理します。今回私たちがこの予算に対する向き合い方として考えなきゃいけないのは、ワクチン接種のための予約業務を担う事業体にコールセンターとして、3,300万、4,100万いろんな数字出ておりますけども、今後業務委託費として宮古市がその団体と委託契約をするんです。今の団体ではそういうことの業務が可能な事業体が何者あってどういうものなのかわからない。そういうふうに理解してのこれ予算提案ですか。

○委員長（工藤小百合君） 伊藤保健福祉部長。

○保健福祉部長（伊藤貢君） お答えします。まだこのコールセンターのほうとそのとおり契約してございませんけれども、現在私たちが、この業者がいいかなというのが5者。5者の中でどこが1番、そのコールセンターも含めて、最適なのかというのを今審議しているところでございます。

○委員長（工藤小百合君） 田中委員。

○委員（田中尚君） あのですね、今回の日本の場合のコロナ感染がやっぱりなかなか終息に向かわない。一方においては世界ではもう終息したところがあります。ニュージーランドとかですよ。日本はなぜそうなったのかということでは、大きく言いますと保健所機能の劣化ですよ。保健師も足りない、保健所も減らしてきた。こういう疫病対策を第一義的に担うのが保健所なんですけども、もうそんなの要らない。できるだけ少なくしていこうと。もう一つはやっぱりその10万人当たりの医師の配置数がもう最悪ですよ、はっきり言いまして。一方においては医師の偏在、様々な議論ありますけども、そういう中で私が言いたいのは、保健所が人を増やして電話回線も増やしてコールセンター化したらいいいんじゃないですか。わけのわかんない団体に3,300万委託料払うよりもね。わけのわかんない団体で言ったら、そのコールセンターを業務しようとされている5団体に失礼になるかもしれませんが、何でそういう流れになるんですか。国の意向なんですか、これは。コールセンターにお金を払うから財源心配ないよ。市町村には負担かけません。そういうふうに私は読めるんですよ。なおかつコールセンターが5団体、その中でも大体雇用される社員が5人。そうするとね、本当にこれが地域のやっぱり住民の皆さんの医療、健康を守るための従来の保健所の機能を果たしていく、そういうことなのかな。それともやっぱりこの間目指してきたできるだけ公の仕事をどんどん民間企業にやってもらいましょう。そういう流れにも私は見えるもんですから、それで委員長に申し訳ないですけども手を挙げたんですよ。今の段階ではコールセンターをこれから言わば公募、募って3,300万の予算だけれども、結果として2,500万で終わるかもしれない。2,000万で終わるかもしれない。そういう余地があるんですか。確認です。

○委員長（工藤小百合君） 伊藤保健福祉部長。

○保健福祉部長（伊藤貢君） はい。予算額っていうかその金額につきましては、今後契約する企業さんと詳細詰めていくような格好になるとは思いますけども、本当に私たちとしましても必要な部分だけ、その部分だけ

ということで精査は進めていきたいと思います。なお保健所の部分につきましては、あくまでも今回の部分は接種を受けるための予約をとる部分ですので、保健所の仕事とはまた違うのかなというふうに個人的に思います。

○委員長（工藤小百合君） 田中委員。

○委員（田中尚君） 今私たちが議論してきておりますのはですね、やっぱり地域内の経済循環。こういう大きなテーマの中で、新型コロナの問題が出た。そういうときにこの予約ですよ、予約業務です。実際に接種するのはまた別途予定するわけですよ。これ誰誰が出来ないわけですよ。しかも、大量に処理するためにいろんなPCRの方か、今度はワクチン接種ですから、そういった部分からするとですね、何かちょっとこの流れてというのは全国的な話ですからね。つまりユニバーサルじゃなくてジャパンサイズで宮古市であろうが東京だろう北海道だろうが同じ仕様でですね、やっぱりワクチン接種に向かうという流れです。一方においては、第三次臨時創生交付金では自治体の自由な使い道として、今回、交付金が配分されておりますよね。私の記憶ではざっと1億5,000万前後だと思っておりますけれども、そういったものをやっぱり柔軟に自治体の工夫で予約業務も含めてやることを構築出来ないのかなと思うんですよ。もう猫も杓子も似たようにですね。コールセンターに委託委託ってことになると、これは誰が1番喜びますか。コールセンターを業務とする団体のための仕事になってくでしょ、どんどん。という思いがありますので、そうならないようにこれから可能であればですね、努力をお願いしていきたいということで終わります。

○委員長（工藤小百合君） 以上で議案第18号令和2年度宮古市一般会計補正予算第16号の審査を終了します。説明員は退席願います。お疲れさまでございました。これより議案第18号令和2年度宮古市一般会計補正予算第16号に対する討論を行います。討論はございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（工藤小百合君） 討論なしと認めます。これより議案第18号を採決します。この採決は簡易表決で行います。お諮りします。本案は原案のとおり決することにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（工藤小百合君） 異議なしと認めます。よって、議案第18号は原案可決すべきものと決定しました。以上で本委員会に付託されました案件は全て審査を終了しました。皆さんにお諮りします。ただいま本委員会に付託されました全ての議案について、全会一致で可決すべきものと決定されました。よって委員長からの提案ですが、2月25日の本会議における委員長報告に対する採決については討論を省略して、全て一括で採決するよう議長に申入れたいと思いますが、ご異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（工藤小百合君） 異議なしと認めます。よって、本委員会の委員長報告に対する採決については討論を省略し一括で採決するよう私から議長に申入れたいと思います。これをもちまして、予算特別委員会を散会します。大変ご苦労さまでした。

午後2時47分 閉会

○

宮古市議会予算特別委員会委員長 工藤小百合